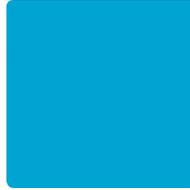




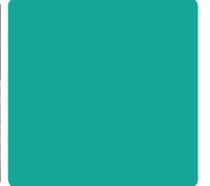
事前学習、体験プログラム、事後学習  
3つのステップで  
実効性の高い内容



新学習指導要領に対応した、  
主体的・対話的で  
深い学びの視点を包括



SDGsに関わる当事者や  
目標達成に貢献している  
人や組織を訪問



# 新潟市で 学ぼうSDGs!

新潟市教育旅行

～ SDGs の目標達成に寄与する体験型プログラム～



# 新潟市で 学びの体験と 思い出づくり。

近年、SDGsの達成に寄与する体験型教育プログラムへのニーズが高まり、見学型修学旅行からシフトする学校が増えています。教育現場の皆さまも、宿泊を伴う体験学習がいかにかに生徒の成長を促すか、よくご存知のことと思います。新潟市は「都市部と田園地域との調和」を最大の特色としています。そして都心部の企業群と、田園地域の「農」や「食」とのコラボレーションといった、新たな価値の創造も進んでいます。まさにSDGsの体験型教育プログラムを実施するのにふさわしい場である新潟市で、たくさんの学びと思い出を持ち帰っていただければ幸いです。

持続可能な未来の交通について新潟市をケーススタディに考察



花街文化と古町芸妓の芸と心意気を学び、衣装をつけての疑似体験!



若者たちの情熱が多くの人を動かし、踊りの祭典を創設!



潟や浜で体験して学ぶ、「水」との共生と豊かな環境づくり



米どころ新潟の食文化とその歴史的背景を、豪農屋敷で体験!



持続可能な開発目標  
SDGsの達成のために  
新潟市は学びに  
最適なフィールド。

新潟市は陸海空の交通網が発達した本州の日本海側唯一の政令指定都市であるのと同時に、日本一の水田面積を有する田園都市でもあります。歴史や文化、豊かな自然環境にも恵まれ、経済、環境、社会の諸課題を包括的に扱うSDGsについて学ぶのに最適なフィールドです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



体験の旅で成長し、  
持続可能な社会の  
担い手に

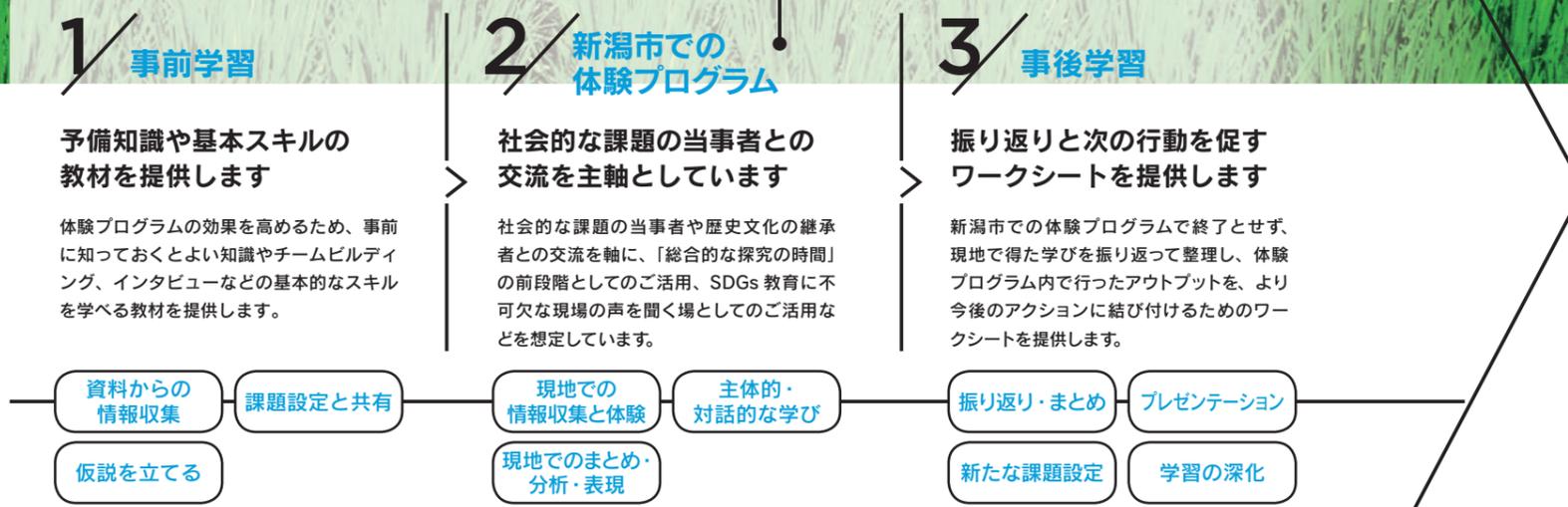
感受性豊かな生徒たちは、宿泊研修で新潟市が抱えるSDGsの課題についてはもちろん、自分たちの地域と異なる暮らしや異なる風景、異なる言葉など様々な出会いを通して多くのことを学び、成長することでしょう。その成長が次のアクションにつながり、将来、持続可能な社会の担い手になってくれることを願っています。

## CONTENTS

### 新潟市でSDGs 5つの学び。……4

- 教育プログラム
- ① 花街文化とはなにか ……6  
～文化を残し守るために～
  - ② 新潟市と踊りの関係性 ……8  
～民俗芸能の継承～
  - ③ 水と共に暮らす ……10  
～恵みと災害のはざままで～
  - ④ 田園型都市の交通 ……12  
～持続可能な交通を目指して～
  - ⑤ 農村の食文化と日本の味 ……14  
～食を支える加工技術～

### プログラムの流れ



# 新潟市でSDGs 5つの学び。

5つのSDGs体験プログラムは、「どこの誰かの、顔の見えない社会課題」ではなく、新潟市に存在する社会課題の当事者や課題解決に取り組んでいる人に着目することで自分に地続きの課題として認識し、解決に向けたアクションの根源となる「原体験」を提供します。本プログラムを通じて、参加者に「社会課題の解決者」としての一步を踏み出してほしい、そんな想いを込めて開発しました。



## 03

**水と共に暮らす**  
～恵みと災害のはざま～  
豊かな水辺を次世代と一緒に  
つくるために  
行われている  
様々な取り組み



「水の都」新潟市の人々は昔から潟や浜、川がもたらす豊かな恵みを受容するとともに、水との共生のための開発に成功しました。しかし開発が進むにつれ、新たな環境問題や災害が注目されるようになりました。そこで、よい環境を取り戻し

未来につなげる活動をしているNPOから話を聞き、潟歩きや漁、カヌーなどで潟や浜の魅力を感じ、新潟市の水辺についてストーリーブックを制作。環境保全への理解を深めます。



プログラム >>>> P.10

## 04

**田園型都市の交通**  
～持続可能な交通を目指して～  
新潟市の交通の現状から  
課題を発見し  
未来まで持続可能な  
交通について考える



古くから交通の要衝だった新潟市。現在も鉄道や幹線道路、フェリー、空港など、発達した交通網をもっています。一方、路線バスの維持が難しい地域があったり、道路利用が多く脱炭

素化が困難だったり、様々な課題を抱えています。本プログラムでは、新潟市の交通を支える人たちが利用者へのインタビューを通し、持続可能な交通とはなにかを探求します。



プログラム >>>> P.12

## 05

**農村の食文化と日本の味**  
～食を支える加工技術～  
米を中心とした  
新潟市の豊かな食文化を知り  
それを牽引してきた  
豪農の文化を体験



新潟市の豪農屋敷と文化を伝える北方文化博物館を拠点に、農村の食文化や保存・加工の技術、さらには日本一の米どころを支えた「豪農」の地域社会での役割やリーダーシップについて学

びます。「日本の家庭が大切にしてきた食文化とはなんだったのか」を探求し、その集大成として新潟市の食材を使って地産弁当の開発を行います。



プログラム >>>> P.14

## 水

## 交通

## 食文化

## 地方創生

## 歴史と文化

## 01

**花街文化とはなにか**  
～文化を残すために～  
新潟市民が  
失いたくなかった  
伝統ある花街文化を  
後世に伝える取り組み



新潟市の古町通・古町商店街は、200年の伝統を誇る花街文化が今も息づく地域。その担い手である芸妓の後継者が途絶えかけたとき、新潟市の企業数十社が出資し、諸芸や作法を身につけた芸妓の育成や派遣を行う株式会社が発立さ

れました。コロナ禍での「お座敷」の激減を支えたのも地元企業です。市民が大切にしている花街文化とはなんなのか、芸妓体験を通して探求します。



プログラム >>>> P.6

## 02

**新潟市と踊りの関係性**  
～民俗芸能の継承～  
10～20代の若者たちが  
踊りで町おこしを企画し、  
伝統の踊りも蘇らせた  
地方創生の物語を知る



新潟市で毎年開催されている全国でも最大規模のダンスフェスティバル「にいがた総おどり」は、10～20代の若者たちが「新潟市にも市民参加の感動がある祭りを作ろう」と始めたものです。

彼らは忘れられていた新潟市の伝統的な踊りをも掘り起こしました。彼らの活動や新潟市民芸術文化会館でのダンス・ワークショップを通して、地方創生の精神や手法を探求します。



プログラム >>>> P.8





#芸妓文化 #歴史・文化 #職業 #舞踊

# 花街文化とはなにか

～文化を残し守るために～

3泊4日

受け入れ可能人数 最小7人 最大15人

※時期によって変動します。詳しくはお問い合わせください。

## 200年の伝統を継承する花街 新潟市古町で学び体験する 芸妓の文化と心意気

新潟市古町は、京都祇園や東京新橋と並び称された花街。200年の伝統を誇る古町芸妓はみなとまち・新潟を代表する文化の一つで、現在も継続的に若手芸妓の輩出に取り組んでいます。一方で、娯楽の多様化やコロナ禍における「お座敷」の激減、ジェンダー教育による価値観の変容などから、花街文化の継承が危ぶまれています。本プログラムでは現役の古町芸妓から直に作法や踊り、芸事などを学び、対話をするなかで、花街文化について深く学び伝統文化の継承について考えます。



古町では見習いを「振袖さん」、芸妓を「留袖さん」と呼び、衣装も髪型も異なる。



古町芸妓が伝えるのは「芸」と「粋」と、「もてなしの心」。日本舞踊の流派・市山流の舞踊をはじめ、稽古で身につけた確かな芸は、お座敷だけでなく様々なイベントで披露され、活躍の場を広げている。



### 1/ 事前学習

#### 日本における花街の文化と歴史を調べる

日本における花街の歴史と文化や、どういった地域に発展したのか、また、なぜ衰退したところと現在も残っているところがあるのかなどを事前に調べしておく、花街文化への興味を深め、現地での座学やフィールドワークをより主体的にとらえることができます。



### 2/ 体験プログラム

#### 伝統文化の継承としての「芸妓」を体感する

古町に花街文化が育った歴史的背景を学び、芸妓をはじめとする新潟市の花街文化を担う人々の想いを知り、日本舞踊やお座敷遊びを通じて、地域の伝統文化の継承について学びを深めます。



### 3/ 事後学習

#### 伝統文化の価値とジェンダーについて考える

現地での体験プログラムをまとめて個人やグループで発表する機会をもつ、自分たちの地域に残っている伝統文化について調べる、また、芸妓のように女性だけが就くことができる仕事を調べ、それが本当に女性でなければいけないのかジェンダーの観点から議論するなど、次のアクションにつなげてみましょう。

プログラムの詳細とワークシートは、こちらよりダウンロードできます。  
<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/kanko/newnormaltourism/index.html>



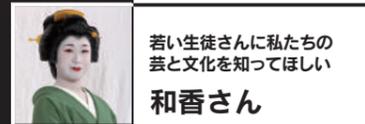
#### ●プログラムを通しての到達目標 (SDGs)



#### ●個別の体験に紐づく到達目標 (SDGs)



#### ●学びの現場から



若い生徒さんに私たちの芸と文化を知ってほしい  
**和香さん**

柳都振興株式会社  
芸妓

柳都振興は1987年、地元の有力企業約80社が出資して誕生した、全国初の株式会社組織による芸妓養成・派遣会社です。中学、高校と吹奏楽部だった私は、正社員という安定した立場で唄や三味線、踊りなどのお稽古をさせてもらえることに魅力を感じて入社しました。芸妓の仕事のほか、年に数回、芸事を公の場で発表する機会があります。その一つが市民の皆さまに芸妓総出で芸を披露する「ふるまち新潟をどり」のイベント。大きな拍手をもらえると、伝統芸能の担い手であることを誇りに感じます。このプログラムで皆さんにも、私たちの芸と文化を知ってほしいと思っています。

実施期間	通年 *お問い合わせください。
定員	最小：7人 最大：15人

## プログラム内容例

1日目	
12:00	新潟到着
13:00	昼食
15:00	オリエンテーション テーマに関連する施設やエリアをグループ単位で自由に視察、情報収集
18:00	夕食
19:00	古町と花街文化の歴史や芸妓についてのお話、または、昼の情報収集の結果を共有
2日目	
10:00	花街文化、古町芸妓への理解を深める(座学)
12:00	昼食
14:00	古町芸妓によるレクチャー
18:00	夕食
19:00	学びの共有
3日目	
10:00	ガイドと一緒に花街文化、古町の歴史に触れる街歩き
12:00	昼食
14:00	日本舞踊(市山流)のレクチャー
17:00	宿泊先着
18:00	夕食
19:00	学びの整理ワークショップ
4日目	
10:00	花街文化と古町芸妓を後世に伝えるためのアイデアをプレゼン
12:00	昼食
14:00	出発

芸妓という職業について、花街文化が育った歴史的な背景など

新潟市における花街の歴史や文化について理解を深め、現在に息づく花街文化のあり様や課題について当事者からの声を聞きます。

芸妓さんが継承する化粧や着付けなどの体験を行い、脈々と受け継がれる技術や想いに触れます。

新潟市に残る芸妓文化の代表である踊りやお座敷遊びを芸妓さんによるレクチャーも交え、体験します。

【おことわり】  
プログラム内容例に記載された3泊4日の日程、訪問先、体験場所、所要時間等については、教育旅行の実施時期、訪問先様の諸事情、交通事情等により変更が生じる場合がございます。あらかじめ了承いただけますようお願い申し上げます。

相談窓口  
新潟市観光・国際交流部 観光推進課  
TEL: 025-226-2612  
メールアドレス: inbound@city.niigata.lg.jp



花街文化とはなにか  
文化を残し守るために

3泊4日





#エンタメ #ダンス #イベント #舞踊 #地方創生

# 新潟市と踊りの関係性

## ～民俗芸能の継承～

3泊4日

受け入れ可能人数 最小 15人 最大 40人

※時期によって変動します。詳しくはお問い合わせください。

### 地域の過去と現在を 未来につなぐ「にいがた総おどり」と 地方創生ストーリーを体感する

新潟市で2002年から毎年9月中旬に開催されている「にいがた総おどり」は県内外から約300団体が参加し、総勢14,000人が踊るオールジャンルのダンスフェスティバル。観客動員数も3日間でのべ40万人を超え、今や新潟市の貴重な観光資源となっています。本プログラムでは、300年前の新潟に実在した「踊りの祭典」を現代に蘇らせた若者たちの活動や、その背景にある新潟の伝統的な舞踊の文化を通して、地方創生につながる地域資源の発掘の方法や考え方を学びます。



橋げたに下駄を打ち鳴らし四日四晩踊ったと伝わる300年前の踊りを再現・復活させた「新潟下駄総踊り」。



「踊り」が盛んな新潟市には、伝統的な踊りから現代舞踊まで、様々なスタイルの「踊り」が根付いている。また、ワークショップなどで「踊り」に触れもらい、文化の裾野を広げる活動も頻繁に行われている。



## 1/ 事前学習

### 新潟市の踊りの文化や「にいがた総おどり」について調べる

「にいがた総おどり」について調べる、動画で「にいがた総おどり」を視聴し、どんな祭りなのかを知る、新潟市の踊りの文化について調べるなど、事前に準備することで、新潟市の郷土芸能や伝統的な踊りのレクチャー、新潟発の現代舞踊のワークショップに主体的に取り組むことができます。



## 2/ 体験プログラム

### 新潟市の伝統の踊りと新たな踊り＝表現を体験する

「にいがた総おどり」が企画された背景やイベントに込められた想いを知り、古町芸妓による日本舞踊や農村に伝わる神楽舞を学び、さらには日本初の公共劇場専属舞踊団として、新潟市から世界に向けて新しい「表現」を発信しているNoismのワークショップで創作ダンスを発表します。



## 3/ 事後学習

### 地域資源を有効活用する方法を考える

なぜ新潟市で様々なジャンルの舞踏が地域に根付いているのでしょうか。本プログラムから得た情報や体験をもとに、地方創生につながる地域資源の発掘の方法や考え方をまとめてみましょう。また、自分たちの地域にそのような資源が眠っていないか調べて、有効活用するための方法を考えてみましょう。

プログラムの詳細とワークシートは、こちらよりダウンロードできます。

<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/kanko/newnormaltourism/index.html>



### ●プログラムを通しての到達目標 (SDGs)



### ●個別の体験に紐づく到達目標 (SDGs)



### ●学びの現場から



「踊り」には世代を超えて人と人をつなぐ力がある  
岩上 寛さん

株式会社サイト  
取締役副社長

2001年、私は19歳でイベントプロデューサーを目指す学生でした。町おこしの活動をしていた能登剛史さん(後に(株)サイトを設立)に声を掛けられて立ち上げた新潟総踊り祭実行委員会。経験も資金もないけれど情熱と行動力はある10～30代の若者が、自分たちで振り付けした踊りを祭りやイベントで踊ってPRしたり、全国の踊りの祭典を回って参加団体をスカウトしたり。あれから20年以上たち、今や市民が世代を超えて楽しむ大規模な祭りに発展した「にいがた総おどり」。第1回からのテーマ「次の世代に受け継ぐ心」を、皆さんにも感じていただければうれしいです。

実施期間	通年 *お問い合わせください。
定員	最小：15人 最大：40人

## プログラム内容例

1日目	
12:00	新潟到着
13:00	昼食
15:00	オリエンテーション テーマに関連する施設やエリアをグループ単位で自由に視察、情報収集
18:00	夕食
19:00	にいがた総おどりについてのお話と映像。情報収集の結果を共有
2日目	
新潟市歴史博物館みなとびあ	
10:00	新潟市のダンスイベントである「にいがた総おどり」に込められた想いや「踊り」に着目した背景について理解を深め、新潟市にどのような波及効果があったのか、当事者からの声を聞きます。
12:00	昼食
14:00	柳町振興 古町芸妓が芸として提供する「踊り」に触れ、その技術や歴史について知ります。
18:00	夕食
19:00	学びの共有
3日目	
10:00	新潟市の郷土芸能に理解を深める 新潟市の郷土芸能の特徴や歴史的背景を知り、新潟市と踊りの深い関係性について理解を深めます。
12:00	昼食
14:00	りゅーとびあ (Noism) りゅーとびあ劇場の練習場などで翌日の発表に向けてダンスの創作 踊り文化が根付く新潟市と公共劇場専属舞踊団であるNoismがどのような背景で生まれたのかを知り、現代舞踊について体験を通じて理解します。
18:00	夕食
19:00	発表準備
4日目	
10:00	創作ダンス発表
12:00	昼食
14:00	出発

### | おことわり |

プログラム内容例に記載された3泊4日の日程、訪問先、体験場所、所要時間等については、教育旅行の実施時期、訪問先様の諸事情、交通事情等により変更が生じる場合がございます。あらかじめ了承いただけますようお願い申し上げます。

相談  
窓口

新潟市観光・国際交流部 観光推進課  
TEL: 025-226-2612  
メールアドレス: inbound@city.niigata.lg.jp



新潟市と踊りの関係性  
～民俗芸能の継承～

3泊4日





#環境保全 #生物多様性 #良質な水 #脱炭素

# 水と共に暮らす ～恵みと災害のはざままで～

3泊4日

受け入れ可能人数 最小 15人 最大 40人  
※時期によって変動します。詳しくはお問い合わせください。

## 新潟市の「潟」と「浜」で 水と共生する人々の生活を体験し 環境保全への理解を深める

新潟市は、阿賀野川と信濃川という二つの大河と、それに伴う「潟」と呼ばれる湿地帯、そして豊富な海洋資源をもつ日本海に囲まれています。「水の都」とも称されるほど水との縁が深く、人々は昔から「潟」や「浜」から豊かな食の恵みを楽しんできました。本プログラムでは新潟市の潟と浜の周辺に住む人々の、水を利用した生活を体験し、潟と浜の環境を未来につなげるために、写真を用いたストーリーブックの制作を通して、環境保全への理解を深めます。



公園として整備されつつ、市民の努力で豊かな生態系を保つ鳥屋野潟。冬にはハクチョウが飛来する。



新潟市には砂州によって外海から分離されてできる海岸の湖、「潟」が複数ある。その多くで急速な都市化による水質汚染が進んでいたが、近年、自然と人が共生する潟を目指す取り組みが行われている。



NPO法人新潟水辺の会提供

### 1/ 事前学習

#### 新潟市の「潟」や「浜」、 環境保全の取り組みを調べる

「潟」や「浜」の成り立ちと特徴について調べる。湿地の保存に関する国際条約であるラムサール条約に登録された佐潟を中心に、現在の新潟市の環境保全への取り組みを調べるといった下調べのほか、体験プログラムで写真を撮影することから、事前に生物や風景写真の撮り方を学んでおくといでしょう。



### 2/ 体験プログラム

#### 水と共に暮らす文化を体験し、 ストーリーブックを制作する

新潟市と水との関係に「恩恵と困難」という切り口でアプローチします。「潟」と「浜」それぞれの恵みと災害について学び、カヌーや漁、空芯菜の栽培・収穫などの体験を通して自然環境と共生する人々の営みを体験し、その生活を後世に伝えるために、写真と文章でストーリーブックを制作します。



NPO法人新潟水辺の会提供

### 3/ 事後学習

#### 人々の生活と自然の 共生についてより深く考える

制作したストーリーブックを家族に見てもらったり、学校で展示・発表したりすることで、本プログラムで見たことや感じたことを他者と共有します。本プログラムが人々の生活と自然の共生について、より深く考えるきっかけになることを期待しています。

プログラムの詳細とワークシートは、こちらよりダウンロードできます。  
<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/kanko/newnormaltourism/index.html>



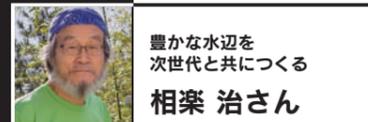
#### ●プログラムを通しての到達目標 (SDGs)



#### ●個別の体験に紐づく到達目標 (SDGs)



#### ●学びの現場から



豊かな水辺を次世代と共につくる  
相楽 治さん

NPO法人新潟水辺の会  
代表世話人

当会は1987年に発足し、2002年にNPO法人化しました。当初は川の再生を活動のメインに据え、その後、「潟」の再生にシフトしました。現在は水質をきれいにするだけでなく、持続可能な資源として活かすプロジェクトに取り組んでいます。鳥屋野潟での空芯菜の水耕栽培もその一つ。会員が、漁協と住民有志と育て、学校給食に提供しています。ほかにも竹林再生のイカダ作りワークショップやカヌー体験など指導して、参加した子供たちの中には潟に親しみ、豊かな水辺づくりに興味をもつ子も出てきました。皆さんは、潟の体験でなにを感じるでしょうか。

実施期間	通年 *お問い合わせください。
定員	最小：15人 最大：40人

## プログラム内容例

1日目	
12:00	新潟駅着
13:00	昼食
15:00	オリエンテーション テーマに関連する施設やエリアをグループ単位で自由に視察、情報収集
18:00	夕食
19:00	学びの共有 ワークショップ

生徒たちが普段どのように水と接しているか(使う水の量など)、情報収集の結果を共有

潟や浜の地形の成り立ちについて

2日目	
09:00	潟と人の関係について理解を深める
12:00	昼食
14:00	潟体験
15:00	潟の 写真撮影
18:00	夕食
19:00	学びの共有ワークショップ

潟の恵みと災害についての歴史やそれらとどのように共生してきたかを理解します。

潟でのアクティビティを通じて、現代における潟の活用方法やそれらの企画に至った想いについて理解を深めます。

潟と新潟市の人々がどのように日々の暮らしを営んでいるか、そのリアルな風景を写真に切り取り、ストーリーブックの制作に結び付けます。

3日目	
10:00	浜と人の関係について 理解を深める
12:00	昼食
14:00	浜体験
15:00	浜の 写真撮影

新潟市の人々がどのように浜で暮らしているか、これからの暮らしと実際に発生する海岸浸食を中心に理解します。

海岸浸食に対応してきた結果として現在ある美しい浜を視察し、どのような想いで対策が行われてきたのかを知ります。

4日目	
10:00	ストーリーブックの原案をプレゼン 総括
12:00	昼食
14:00	出発

#### | おことわり |

プログラム内容例に記載された3泊4日の日程、訪問先、体験場所、所要時間等については、教育旅行の実施時期、訪問先様の諸事情、交通事情等により変更が生じる場合がございます。あらかじめ了承いただけますようお願い申し上げます。

相談  
窓口

新潟市観光・国際交流部 観光推進課  
TEL: 025-226-2612  
メールアドレス: inbound@city.niigata.lg.jp



水と共に暮らす  
～恵みと災害のはざままで～

3泊4日



#鉄道 #バス #船 #交通網 #脱炭素 #まちづくり

# 田園型都市の交通

～持続可能な交通を目指して～

3泊4日

受け入れ可能人数 最小 15人 最大 40人

※時期によって変動します。詳しくはお問い合わせください。

## 新潟市の交通の現状を検証し サービス提供者や利用者への インタビューから課題の解決策を創出

古くは北前船や川舟が集まる「湊町」として栄え、明治以降は新潟港の近代化と共に発展した新潟市。現在も上越新幹線や在来線のターミナルである新潟駅と国内外の都市に就航している新潟空港を有し、交通の要衝としての存在感は増えています。一方で、路線バスの維持が難しくなっていたり、道路交通量の多さから脱炭素化が困難だったり、様々な課題を抱えています。本プログラムでは、新潟市の交通の現状を検証し、未来に向けて持続可能な交通とはなにかを探求します。



上空から見た新潟市の中心部。信濃川の河口に突き出す万代島には、佐渡汽船のフェリーターミナルがある。



佐渡汽船株式会社提供

新潟市では、「都心アクセスの強化」「都心部での移動円滑化」「生活交通の確保維持・強化」に、新たに「広域交通との連携強化」「市民や関係者による協働」を加えた5つの視点に基づく公共交通を推進している。



## 1/ 事前学習

### 新潟市の交通について調べ課題を推測する

新潟市の陸海空の交通について、グループで分担して調べておきましょう。発展の歴史や現状を、路線の増減や利用者数の増減など様々な側面から推測してみてください。また、実際に現地に訪問した時にインタビューしてみたい人やその人に聞きたいことをあらかじめ想定しておくスムーズです。



## 2/ 体験プログラム

### 新潟市の交通の課題を調べ解決策を創出する

陸海空の交通資源が豊かで、交通と共に発展してきた新潟市。どのような地形や立地条件で交通が整備されてきたのかを知り、現在の人々の生活にどのように貢献しているのかをサービス提供者や利用者の声を聞き取って明確にし、そこから課題とあるべき姿を洗い出すことで解決策を創出し、発表します。



## 3/ 事後学習

### 持続可能な理想の交通網のアイデアを出し合う

新潟市の交通の課題解決についてプレゼンテーションした経験を踏まえ、自分たちの地域の持続可能な理想の交通網について考えてみてください。路面電車の復活、無人電気自動車の活用、自転車専用道路の整備など、SDGsの観点でいろいろなアイデアが出てくると盛り上がるでしょう。

プログラムの詳細とワークシートは、こちらよりダウンロードできます。  
<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/kanko/newnormaltourism/index.html>



### ●プログラムを通しての到達目標 (SDGs)



### ●個別の体験に紐づく到達目標 (SDGs)



### ●学びの現場から



新潟交通株式会社  
経営管理室

弊社は運輸事業をメインに不動産事業、商品販売事業、旅館事業など多岐にわたる事業を展開しています。なかでも乗合バスは新潟市の公共交通の要です。市民を取り残すことのないサービスが基本です。脱炭素やMaaS\*の導入といった社会的な取り組みが求められるのも公共交通ゆえのこと。私はそこに、難しさと同時にやりがいを感じます。公共交通においては特定の誰かだけが便利になるのではなく、「便利さ」と「不便さ」を皆で分け合いながらサービスを維持していくことが重要です。そしてこの考え方は、SDGsにも通ずると思っています。

\*複数の交通機関のサービスを一つのサービスとして結び付ける概念

実施期間	通年 *お問い合わせください。
定員	最小：15人 最大：40人

## プログラム内容例

1日目	
12:00	新潟駅着
13:00	昼食
15:00	オリエンテーション テーマに関連する施設やエリアをグループ単位で自由に視察、情報収集
18:00	夕食
19:00	交通のイメージや課題、情報収集の結果を共有
2日目	
9:30	新潟市歴史博物館 みなとびあ <span>新潟市の歴史、主に交通の歴史について見学</span>
12:00	新潟鉄道資料館 <span>9 産業遺産の活用</span> <span>11 持続可能な都市</span>
13:00	昼食
15:00	新潟港 佐渡汽船/新日本海フェリー <span>11 持続可能な都市</span> <span>14 海の豊かさ</span> <span>港を中心に発展してきた新潟市の現代における港の役割や課題を知り、海の交通について理解を深めます。</span>
17:00	水上シャトルバスで遊覧し、新潟市の交通と観光について理解を深める
18:00	夕食
19:00	学びの共有ワークショップ
3日目	
09:00	新潟交通 <span>7 持続可能なエネルギー</span> <span>9 産業遺産の活用</span> <span>11 持続可能な都市</span> <span>新潟市におけるバス交通の歴史や市民の足としての役割、さらには現在における課題を当事者の声を頼りに理解します。</span>
12:00	昼食
14:00	新潟空港 <span>11 持続可能な都市</span> <span>なかなか一般の人が入れない空港の裏側や、空港に求められる役割や課題を知り、課題設定の材料とします。</span>
	新潟空港よりグループに分かれタクシーに乗車 <span>3 健康と福祉</span> <span>8 働きがい</span> <span>11 持続可能な都市</span> <span>単なる観光ではなく、どのような課題が潜んでいるかという視点で、新潟市の観光や陸上交通に関する課題をタクシーで移動しながら体感します。</span>
18:00	夕食
19:00	課題解決案創出ワークショップ
4日目	
09:00	それぞれのグループで課題を選択し、その課題の解決方法をプレゼン
11:00	総括
12:00	昼食
14:00	出発

### | おことわり |

プログラム内容例に記載された3泊4日の日程、訪問先、体験場所、所要時間等については、教育旅行の実施時期、訪問先様の諸事情、交通事情等により変更が生じる場合がございます。あらかじめ了承いただけますようお願い申し上げます。

相談  
窓口

新潟市観光・国際交流部 観光推進課  
TEL: 025-226-2612  
メールアドレス: inbound@city.niigata.lg.jp



#農村文化 #建築 #庭園 #農業 #田園都市  
**農村の食文化と日本の味**  
 ～食を支える加工技術～

3泊4日

受け入れ可能人数 最小 15人 最大 40人  
 ※時期によって変動します。詳しくはお問い合わせください。

**新潟市の豪農屋敷を拠点に  
 農村に伝わる食文化を体験し  
 新潟市産の食材で弁当を開発する**

2013年12月、「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。季節感や地域色、行事食を取り入れた家庭の和食がその対象となったことが、当時は大きな話題となりました。しかし、近年の日本の家庭料理は洋食中心で米の消費量も減ってきています。本プログラムでは新潟市の豪農屋敷を拠点に、農村に伝わる食文化を保存や加工の技術とともに学び、新潟市の地産弁当の商品開発を体験しながら「日本の家庭が大切にしてきた食文化とはなんだったのか」を探求します。



日本一の米どころ新潟市の米飯を中心に、新潟市の食材を使って自分だけのお弁当を作ろう。



日本海の豊かな漁場に近く、都市部と農村部が共生する新潟市には、新鮮でおいしい食材を生産する農漁業者や、それらを原材料とする加工食品業者が多い。また、雪深い冬をしのぐための発酵食品文化も発達した。



株式会社新生バイオ提供

**1/ 事前学習**

**新潟市の農産物や水産物について調べる**

新潟市の農産物、水産物について、どんなものがとれるのか、それらを活用した郷土料理や加工食品にはどんなものがあるかを事前に調べておくことで、実際にプログラムで目にする食材や生産者に親近感がわきます。また、本プログラムではお弁当作りをするため、料理の基礎を家庭で復習しておくといでしょう。



**2/ 体験プログラム**

**新潟市の食文化と地産弁当の商品開発を体験する**

新潟市の豪農屋敷や湯をフィールドとして食文化を体験。豊富な食資源をもたらす自然環境、それを活用してきた人々の営みや地域の歴史・文化を知った上で、新潟市の農産物や水産物、それらの加工品をできる限り使って、生産者の一助にもなる新潟市らしいお弁当を開発します。



**3/ 事後学習**

**持続可能な食文化のために必要なこと、できることを考える**

本プログラムでの体験をもとに、自分の地域で生産されている食材や特産品を使ってお弁当やお菓子などを作ってみてください。また、供給過剰によるフードロスや、第一次産業従事者の高齢化による廃業など、食に関する課題はたくさんあります。持続可能な食文化のためになにが必要か考えてみましょう。

プログラムの詳細とワークシートは、こちらよりダウンロードできます。

<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/kanko/newnormaltourism/index.html>



**●プログラムを通しての到達目標 (SDGs)**



**●個別の体験に紐づく到達目標 (SDGs)**



**●学びの現場から**



豪農・伊藤家が果たした機能や文化を伝える  
**伊里 浩さん**

北方文化博物館  
 学芸員

当館は伊藤家7代当主が「250年の歴史をもち、越後随一の豪農である当家の遺構を後世に残したい」とGHQに働きかけて誕生した、戦後の私立博物館第1号です。それを引き継いだ8代当主は庭や蔵を含む豪農屋敷全体を、見るだけでなく当時の文化を体験できる博物館にしました。皆さんにはここで、かつて使用人60名を含む一家の飯をまかした大釜やかまど、300戸の集落に振る舞う餅をついた臼などを見て、実際に釜でご飯を炊いてもらいます。そして、村人の寄り合いが行われていた大型の囲炉裏で、今に受け継がれる農村の食文化を味わってください。

実施期間	通年 *お問い合わせください。
定員	最小：15人 最大：40人

**プログラム内容例**

1日目	
12:00	新潟駅着
13:00	昼食
15:00	オリエンテーション テーマに関連する施設やエリアをグループ単位で自由に視察、情報収集
18:00	夕食
19:00	学びの共有ワークショップ 明朝の炊飯についてのお話 <small>米研ぎのメカニズムや、炊飯器と土鍋で炊くご飯の栄養素等の比較など</small>
2日目	
09:00	北方文化博物館内にて炊飯体験 <small>新潟市に残された農業文化のうち、現代に息づく料理技法などを科学的に理解し、実践します。</small>
12:00	炊いたご飯で囲炉裏を囲い昼食 <small>豪農屋敷や周辺に住む人々の文化を知るために、「遊び」に着目して、実際の体験を通して、当時の文化に触れます。</small>
14:00	「湯」での漁見学や体験 <small>湯歩き、カヌー体験、投網体験、空心菜の収穫&amp;栽培体験などを通して、豊かな自然とどのように共生してきたか体験します。</small>
18:00	夕食
19:00	学びの共有ワークショップ
3日目	
9:00	新潟漁協 新潟市の漁についてのレクチャー
11:00	鮮魚店 魚屋さんの困りごとやフードロスを出さない方法などをレクチャー
12:00	昼食
14:00	食育・花育センター <small>食と花をメインテーマに様々な体験と交流ができる複合施設いくとびあ食花内の食育・花育センターで、農産物、水産物の加工とお弁当開発について学びます。</small>
16:00	古町商店街 <small>古町商店街にて、開発したお弁当メニューに必要な材料の買い出し</small>
18:00	夕食
19:00	お弁当開発ワークショップ
4日目	
09:00	お弁当の調理 <small>新潟市産の食材の活用や生産者の困りごと(フードロス等)の解決を目指す</small>
12:00	試食、審査
14:00	出発

**| おことわり |**

プログラム内容例に記載された3泊4日の日程、訪問先、体験場所、所要時間等については、教育旅行の実施時期、訪問先様の諸事情、交通事情等により変更が生じる場合がございます。あらかじめ了承いただけますようお願い申し上げます。

**相談窓口** 新潟市観光・国際交流部 観光推進課  
 TEL: 025-226-2612  
 メールアドレス: inbound@city.niigata.lg.jp



## 新潟市近隣市の体験プログラム

### 新潟市から近隣 3市へ足を延ばして！ おすすめの体験プログラムと施設を紹介します。

#### 三条市

マルト長谷川工作所

アクセス：新潟駅より北陸自動車道  
経由、約 48 分

見学・体験

#### 「ものづくりのまち」で 工場見学と製作体験

高品質な工具やネイルケアの道具が世界的に愛用されている製作所。その現場を見学し、そこで作られた製品を使って、ものづくりを体験します。

#### プログラム内容

- 工場見学：1班35人程度（無料）、所要時間 約60分（調整可能）/ 団体の場合、ガイド付
- 買い物：併設されるショップで買い物
- 体験：ビーズアクセサリ製作体験 1班 15人まで、所要時間 約 60分。自社製工具を使い、イヤリングやプレスレットなどを製作します。
- SDGs セミナー：SDGs の基礎講習と事例紹介、自分たちができることを考えるワークショップ実施。35人まで、所要時間 約 60分。



総合  
窓口

三条観光協会

URL：https://www.city.sanjo.niigata.jp/sanjonavi/  
TEL：0256-34-5603

#### 燕市

燕市産業史料館

アクセス：新潟駅より北陸自動車道  
経由、約 39 分

見学・体験

#### 金属加工産業の 歴史と文化を知る

江戸時代から受け継がれる燕市の金属加工技術の歴史を紹介する博物館。併設の体験工房館では鋸目入れなども体験できます。

#### プログラム内容

- 史料館見学：40人程度（要相談）、所要時間 約60～70分（体験時間含む）
- 体験：①チタン製スプーン酸化発色体験（アイスクリームスプーン、コーヒースプーン）、所要時間 約3～5分前後。チタン製のスプーンに電流を流してスプーン表面に「酸化被膜」を作って発色させます。②純銅タンブラー鋸目入れ体験、所要時間 約30分。純銅のタンブラーの表面を金鋸でたたき、鋸目を入れていきます。



総合  
窓口

燕市観光協会

URL：https://tsubame-kankou.jp/  
TEL：0256-64-7630

#### 村上市

村上市スケートパーク

アクセス：新潟駅より日本海東北自動車道 / 日本海沿岸東北自動車道 経由、約 57 分

体験

#### 林業のまちが誇る 全天候型屋内スケートパーク

地元の木材をふんだんに使った日本最大級の屋内スケートパークで、施設の見学やスケートボード、ボルダリング、スラックラインの体験が可能です。

#### プログラム内容

- 体験：スケートボード、ボルダリング、スラックラインの体験。小学生 36名まで、中学生 30名まで。上記人数を超える場合は要相談。講師の指導の下、班に分かれ各種目を25分程度体験いただけます。所要時間 2時間～2時間30分程度。
- 講師：有料  
・ボルダリング、スラックライン 講師 1名につき各種目 20名まで指導可能。  
・スケートボード 講師 1名につき 4名まで指導可能。
- プログラム問い合わせ先  
URL：https://www.city.murakami.lg.jp/soshiki/79/murakamishiskatepark.html  
TEL：0254-53-8802



総合  
窓口

村上市観光協会  
(その他の観光情報)

URL：https://www.sake3.com/  
TEL：0254-53-2347

新潟市教育旅行プログラム窓口

新潟市観光・国際交流部  
観光推進課

TEL：025-226-2612

メールアドレス：inbound@city.niigata.lg.jp

相談受付時間 8:30～17:30(土日祝、12月29日から1月3日除く)

「新潟市教育旅行～SDGsの目標達成に寄与する体験型プログラム」は、新潟市新しい観光スタイル推進協議会によってプログラム化されたものです。実際の教育旅行の販売と実施については旅行会社によって行われます。また、プログラムの体験料は参加人数や季節等により変動いたします。なお、パンフレットの掲載情報は令和4年3月17日のものです。掲載内容については変更になる場合もありますので、ご利用の際は事前にご確認ください。